

大原社会問題研究所五十年史

III 本格的事業の展開から東京移転まで〔一九二三～三六年〕

高野所長第三回渡欧前後

一九二六年 大正一五年 この年の初め、高野所長は倉敷において開かれた労働科学研究所協議会に出席した(一月一日)。また同じ月の二三日には京都に河上肇、佐々木惣一両教授を訪ね、京大学生事件にともなう河上家家宅捜査に対し、学問の自由に関する共同プロテストを公表してはと提議している*。

*一九二六年一月にいわゆる「京大学生事件」が起り、前年成立した治安維持法による最初の事件となった。この事件に関し河上博士宅が官憲の捜査をうけたことに対し、高野博士はまず河上、佐々木両氏に社会科学の自由に関する共同プロテストの発表を提議し、のち大内、森戸両氏の賛成を得、東大その他東京の学界に参加を要請したが、四月一四日吉野作造氏より東大はプロテストに気乗り薄との報告を受け、ついにこの抗議文の発表は断念したのである。

三月一〇日に高野氏は大原孫三郎氏を訪い、渡欧の決意をのべその賛成を得た。大原氏は同月二三日、高野氏渡欧にともなう臨時費五、〇〇〇円の支出を決定し、これを研究所に通知してよこした。これより後、所長渡欧後の研究所の運営について、高野氏は各委員と種々打合わせ、七月に総会を開くことに決定した。

四月八日細川研究員がヨーロッパ留学の旅を終えて帰朝し、九日にはモスクワのマルクス・エンゲルス研究所訪問の様相その他の報告があった。同月二〇日の委員会では、細川氏の提案によるマルクス・エンゲルス研究所との出版物交換の件を決定し、また片山潜氏に所の出版物を送ることを承認した。

四月一五日、東京の研究員会(出席者は櫛田、権田、大内、高野氏)で、高野氏渡欧の件、安部磯雄氏の図書資料(『平民新聞』等)寄贈に対する謝礼の件などを決定し、かねて研究生として入所したいとの申込みのあった笠信太郎氏については、研究上の便宜供与につき考慮すること、等を決定した。

さて前記の、所長渡欧中の研究所運営その他重要事項決定のための総会は七月六日大阪において開催された(高田、森戸、権田、大内、細川、大林、久留間、櫛田、高野氏出席)。当日の総会で決定を見た主な事項は次の通りである、

- (一) 明年度予算は今年度の方針に従い編成すること。
- (二) 会計の内部監査に当る会計委員を設けること。
- (三) 資料室委員を設け、今年度は森戸氏がこれに当ること。
- (四) 図書委員を設け、買入れ図書選定に当り、今年度は久留間氏が担当すること。
- (五) 資料主任には後藤氏になること。
- (六) 図書分類は委員共同してこれに当ること。
- (七) 『日本社会事業年鑑』は明年より廃刊すること。
- (八) 『日本労働年鑑』の編集主任は各委員の廻り持ちとし、今年度は森戸氏が担当し、権田、高田両氏が補助すること。
- (九) 宇野弘蔵、堀経夫両氏に、マルクス『剰余価値学説史』の翻訳を分担せしめること。
- (一〇) 米騒動の資料を集めること。
- (一一) 山名義鶴氏は六月末、太田敏兄氏は七月末にて解職すること。
- (一二) 会計制度、俸給制度、研究生制度を懸案として今後の研究にまつこと。

(一三)所員の著作を所の出版物として刊行する場合、初版の印税は所の収入とし、二版以後は著者と所の折半とすること。

(一四)高野氏滞欧中は高田氏を所長代理とすること。

(会計委員は七月一三日の委員会で、森戸氏が担当することに決定した)。

総会を終えたのち、高野氏は留守中の事務処理等をすまし、九月一二日大原氏主催の送別会にのぞみ(これには、細川、高田、越智氏をのぞき大阪の全所員が出席した)、一九日、三の宮港より第三回渡欧の途について*。内藤赴夫氏は私費留学にて高野氏に同伴した。

*高野氏はヨーロッパ渡航後、ミュンヘン、ベルリン等各地を歴遊、一九二七年七月一日には内藤氏と共にベルリンを発って三日モスクワ着、マルクス・エンゲルス研究所を訪れ、所長代理ツェーベル氏の案内にて研究所を見学した。この折、内藤氏の作成した『日本マルクス主義文献』(独訳)を同研究所に寄贈した。七日にはレーニン研究所を訪い、また二三年振りに片山潜氏に面会し、帰りにレーニン廟をおとずれている。—高野氏の西遊日記に曰く「本日は想い出多き日なり」。八日にはプレハノフ研究所を訪れ、再びベルリンに向け発っている。

高野氏は一九二七年十一月帰朝した。なおこの年の七月一七日(推定)、研究所の理事高田慎吾氏が死亡した。

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

[前のページ](#) ← 法政大学大原社会問題研究所五十年史【目次】 → [次のページ](#)

[研究活動・刊行物](#) [OISR.ORG全文検索](#)

[法政大学大原社会問題研究所\(http://oisr.org\)](http://oisr.org)
